

| | | 成 果 と 課 題 | | | | | |
|----|---|--|--|--|--|--|---|
| | | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 4 年 | 5 年 | 6 年 |
| 国語 | <p>ペアやグループで話し合う活動を通して、自分の考えを伝えることができる児童が増えた。</p> <p>短文を作る活動から基本的な文型はほとんどの児童が身に付いている。しかし、「は」「へ」「を」などの助詞の理解や表記が十分でない児童もいる。</p> <p>読書や音読を通して、少しずつだが、語彙力が身に付いてきている。</p> <p>めあてを明確に提示することで、見通しをもち学習が進めることができるようになった。</p> | <p>生活科や他の教科との関連を図りながら、児童に身近な題材を選ぶことで意欲的に書く児童が増えた。また、自己評価、相互評価を取り入れ、互いのよさに気付く場を設けた。</p> <p>話す活動では、「声のものさし」や「聞き方名人」などの掲示物を使うことで、話し方、聞き方についての意識が高まった。</p> <p>自分の意見や考えを発表することに対して自信をもてない児童がまだ少しいる。</p> | <p>書く活動では、初め・中・終わりを意識させる構成メモを作ることで、文章の組み立て方に慣れた児童が増えた。</p> <p>物語文では初発の感想をもとに学習計画を立てることができた。</p> <p>本文を根拠に読み取る力がついた。また登場人物の気持ちに寄り添って、場面の様子を考えたり、心情を読み取ったりする力がついた。</p> <p>自分なりの考えをノートに書いた後に、友達同士で意見を交流する機会を増やしたことで、自分の考えを深める力がついた。</p> | <p>話の中心に気を付けて聞いたり、自分の意見を話したりする活動を増やしたことで意識して「言葉」を使おうとする児童が増えた。</p> <p>話しの中心や段落相互の関係に注意して文章を書けるように指導を繰り返したことで、書く能力を高めることはできた。しかし、個人差が大きいことが課題である。</p> <p>漢字辞典や国語辞典を使い分け、使う習慣がついてきた児童が多い。</p> | <p>物語文では、呼称や情景描写を採る活動やクライマックスの一文などを採る活動を取り入れることで、叙述を意識する児童が増えた。</p> <p>しかし、説明文の要旨を読み取ることが苦手とする児童が多いことが課題である。</p> <p>言語事項の学習においては、問題作りなどを通して、辞書を引く活動を多く取り入れた。楽しみながら辞書を引く児童が増え、漢字や言葉に興味をもつ児童が増えた。</p> | <p>漢字の意味や使い方を調べる活動を通して、言葉に興味をもつ児童が増えた。しかし、適切に活用することが困難な児童が多い。</p> <p>読解の学習において、要旨を書きまとめたり、調べたことについて発表したりと様々な形態の活動を取り入れたことで、書く意欲が高めることができた。</p> | |
| 社会 | | | | <p>国語や総合的な学習の調べ学習と連動させ、自ら課題を設定し、自らの力で課題を解決していく力を伸ばすことができた。</p> <p>資料から自分なりの意見を考えることができていない。児童の興味関心を高めるような資料を多く提示し、資料から考える習慣をつけさせることで、資料活用・表現の力を高めることが必要である。</p> | <p>具体的な資料や体験から、一人ひとりが自分自身の課題をもち、主体的に調べる力を伸ばすことができた。</p> <p>グラフや表、文献、写真など各資料の特徴を生かして、調べたことをまとめる表現力もついていた。しかし、資料から何を読み取ればよいのかがわからない児童が多いため、個別での指導が必要である。</p> | <p>問題解決に必要な資料の活用方法を指導してから調べ学習を行ったことにより、資料の読み取りが深まった。</p> <p>資料の選択の視点や方法、ノートへのまとめ方を指導したことにより、自分の考えを分かりやすく表現することができた。</p> <p>インターネットを活用して活動したことで、学習に対する意欲が高まった。</p> | <p>歴史上の人物や出来事に焦点をあてて、興味関心を高めて授業を展開したことで調べ学習への意欲が高まった。また、新聞や模造紙にまとめる活動を多く取り入れたことで、色使いなどを工夫して表現する力が育った。</p> <p>資料から読み取る力を育てるために、資料の精選を行う工夫が必要である。</p> |
| 算数 | <p>少人数での学習を進めることで、意欲も上がり、個別指導を充実させることができた。</p> <p>繰り返し指導することで、基礎・基本の内容が身に付いてきている。</p> <p>問題を解く際に、分かっていることや質問していることに着目させることで、なぜその答えになるのかを考えることができた。</p> <p>ICT機器の活用をすることで、視覚的にとらえやすくなった。</p> <p>半具体物を使って、実際に操作する体験を通して、学力の定着を図ることができた。</p> | <p>具体物を使って計(量)ったり、操作をしたりする体験を通して量感を養うことができた。</p> <p>基礎学習の時間を確保したりするなど、繰り返しドリル学習を行ったりすることで、加法や減法、乗法の計算を定着することができた。</p> <p>式の表す意味を理解させるために、言葉や図、式を関連させて指導することは効果的だった。</p> <p>乗法では、九九の構成の仕方を確実に理解させ、頑張りカードなどで意欲をもたせながら、繰り返し唱えることで定着を図ることができた。</p> | <p>習熟度別学習において、学習習慣の確立を図り、個々の基礎力の向上を図ることができてきた。今後も継続して指導することで、基礎基本の定着を進めたい。</p> <p>児童のニーズに合った習熟度別コースを展開し、個別支援を組み合わせることで、算数に関する意欲を高め、理解を深めることができつつある。</p> <p>作業的、体験的な活動を取り入れることに難しさはあるが、今後も日々の学習の中で量感を養う指導を続けていく必要がある。</p> | <p>習熟度別学習において、各コースのねらいを明確にし、児童の段階に応じた学習を展開することで、個人差の解消や基礎力の向上を図ってきた。個別指導が必要な児童もいるので、継続的に指導を続けていく必要がある。</p> <p>課題解決のための考え方を裏付ける根拠を示すように声をかけ続けたことで、既習事項を基に考えられるようになってきた。また、ノートに思考の流れをまとめることもできるようになってきている。</p> | <p>当初の習熟度別学習コースでは児童の実態に沿えない部分があったため、コースを再編成して児童の段階に応じた学習を展開することで、理解度や表現力の向上を図った。</p> <p>児童の習熟度に応じたペアやグループでの交流場面を設定し、相手の理解に沿って自分の言葉で説明させることで表現力の向上を図った。</p> <p>ノート点検をこまめにし、一人ひとりの理解や習熟の様子を把握して指導に生かした。技能・表現力ともにまだまだ個人差も大きく、引き続きの指導が必要である。</p> | <p>習熟度に応じた授業を行うことで計算の基礎基本の定着を図ることができてきた。</p> <p>個別指導が必要な児童については、継続的に指導を重ね、基礎力をつけていく必要がある。</p> <p>課題を明確にし、考える過程をノートに表したり、発表し合ったりする活動を通して、個々の算数的表現力が高まってきた。また、徹底したノート指導により、自分自身で分かりやすくノートにまとめることができるようになってきた。</p> <p>今後は、個人差解消に向け、系統的に指導を進めていく必要がある。</p> | |
| 理科 | | | <p>子どもたちから出た、疑問から学習課題を立て、実際に身近なものを使い実験を行ったり、生き物や植物を育て観察を行ったりすることで、子どもたちの興味関心や意欲を高めることができた。予想を立ててから実験を行ったことで、思考しながら実験に取り組むことができた。また、予想→実験→結論の活動が定着した。</p> | <p>学習の流れが定着し、ノートに何を書いてまとめていけばよいのかがわかるようになった。</p> <p>目的意識を明確にもたせて実験を行うことで、仮説と結果を比較検討したり、結果からどのようなことが言えるか考察したりすることができた。</p> <p>理科的な用語を正しく使う力が弱いため指導が必要である。</p> | <p>予想・実験・観察の手順や様子・結果・理由や原因を明記した記録の仕方を指導し、目的を意識させて取り組ませたことにより、実験・観察の結果と結論とを区別して考察することができるようになってきた。</p> <p>日常生活の生活場面で応用する力を高めるためにさらに科学的思考力を高める指導が必要である。</p> | <p>実験方法を考える際、条件制御を意識して取り組んだ結果、比較、検討段階できちんと条件をそろえて考察することができた。</p> <p>生活体験をふまえて考える児童が少なく、知識から課題を考える傾向が強いためか、実験や経験から推論する力が弱いことが課題である。</p> | |

| | | | | | | |
|------|---|---|---|--|--|---|
| 生 活 | <p>活動や体験を取り入れたことで、身近な人との関わりをもつことができた。また、自分なりの思いや願いをもたせて自然や人・物に関わり、遊びや生活を工夫しようとする児童が増えてきた。 児童の知的な気付きを表現させるための手立てが必要である。</p> | <p>商店街や高齢者施設などで様々な人とかかわることで、地域の様子や人々の努力・生き方に触れ、伝える力を伸ばしたり、自分の生活を考えたりすることができるようになってきた。 自然とのかかわりについては天候の不順もあり満足のいく野菜が育たなかった。今後、代替の作物や植物などを育てていくことも考えて計画を立てていきたい。</p> | | | | |
| 音 楽 | <p>歌う姿勢を意識し、よい声の出し方や口の開け方に気を付けて歌う児童が増えた。 鍵盤ハーモニカは、階名で歌ったり、リズム打ちをしたりすることで正確に演奏することができるようになった。</p> | <p>鍵盤ハーモニカの練習帳以外にも易しい楽譜を用意することで合奏を楽しみ意欲的に表現できるようになってきた。 手拍子や打楽器によるリズム打ちを行い、リズムに慣れさせることができた。 音楽の学習を行う場が主に教室であり、音楽室の利用を増やすなどして多種多様な楽器に触れさせ音感を磨きたい。</p> | <p>題材を工夫し、基礎基本を繰り返して指導すると共に個人指導に重点を置いたことにより、歌・リコーダー・楽器など表現の技能の定着を図ることができた。また、鑑賞の能力も伸びた。 支援を要する児童の指導と、音楽づくりの取組にも力を入れていきたい。</p> | <p>学習のめあてを明確にし、学習カードを使用したことにより、個々の児童だけでなく学年全体の表現の技能が伸びてきた。鼓笛・行事にも意欲的に取り組んだ。また、鑑賞の能力も伸びた。 支援を要する児童の指導と、音楽づくりの取組にも力を入れていきたい。</p> | <p>選曲を工夫し、課題の達成度を児童が把握できるような学習カードを活用したことにより、それぞれの学習内容の定着を図ることができた。鼓笛・行事にも意欲的に取り組み、鑑賞の能力が伸びた。 音楽づくりの取組にも力を入れていきたい。</p> | <p>選曲を工夫し、活動に対して的確な指示を心掛けることにより、それぞれの指導内容の能力を高めることができた。鼓笛・行事にも意欲的に取組、鑑賞の能力が伸びた。 音楽づくりの取組の時間をあまりとることができなかった。</p> |
| 図画工作 | <p>日常生活においても、丁寧にハサミや糊などの用具を使う指導をしたことで、扱い方が上手になった。 4月当初、技能での個人差があったが、個別指導を行ったことで技術の向上に繋がり、個人差はなくなってきた。 鑑賞では児童同士が互いのよさを認め合うことができた。</p> | <p>電子黒板を活用し、具体作や写真などを見せたりイメージをふくらませる活動を取り入れたりすることで、豊かにイメージを膨らませることができるようになった。 材料に親しませる時間をとることで、材料の特性を生かした作品を作る児童が増えた。 製作途中や完成後に鑑賞の時間を設けることで、自分の思いを伝えたり友達への工夫に気付いたりすることができた。</p> | <p>題材の工夫、ICTの活用、児童一人一人への声かけなどにより多くの児童が意欲的に製作に取り組んだ。段階を追って安全指導をすることにより技能が向上した。 基本的な技能にやや個人差があることが今後の課題である。</p> | <p>題材を工夫したり、ICTを活用したりすることにより、多くの児童が意欲的に創作に取り組み、その中で基本的な技能も身につけることができた。活動の導線や手順を工夫することで安全を確保することができた。支援を要する児童に対する指導・助言の仕方を工夫していく必要がある。</p> | <p>題材、テーマの工夫や適切な助言、手順を示すことにより、多くの児童が意欲的に創作活動に取り組み、個々の造形的表現力も高まった。また、題材ごとに振り返りを行うことにより活動の見通しを持って製作に取り組ませることができた。今後も児童の実態に即した題材を工夫し、互いの良さを認め合いながら、アイデアを共有し意欲的に創作に取り組ませたい。</p> | <p>題材、テーマを工夫したり、表現方法に幅を持たせることにより、児童一人一人が意欲的に創作活動に取り組み、個々の児童の造形的表現力が高まった。また、学習カードを使って振り返りや鑑賞を行うことにより、見通しを持って活動に取り組ませることができた。今後も、個々の個性や創造力をいかし、互いの良さを認め合いながら意欲的に創作に取り組ませたい。</p> |
| 家 庭 | | | | | <p>手元見本や ICT を活用し、作業工程や学習内容を視覚化することで、苦手意識のある児童も自信を持て、次のステップを踏むことができた。効果的に対話活動を取り入れ、学習を深める工夫が必要である。</p> | <p>自分の力量に合わせた製作活動を行うことによって、一人ひとりが意欲的に作業に取り組めた。また、ペア学習を取り入れることで、互いに教え合い、学び合うことができた。家庭での実践につなげられるように機会や場面を設定し、指導計画を工夫することが必要である。</p> |
| 体 育 | <p>準備や片づけの指導を徹底し、活動時間の確保することができた。そのため、運動技能が向上してきた。 運動に苦手意識がある児童も、スモールステップで技能のポイントを提示したことで、意欲的に活動することができるようになった。 運動を工夫し、楽しくできるような、めあてのめたせ方の工夫が必要である。</p> | <p>よい動きを見つけさせたり、それらを広めたりしたことで思考判断力の高まりが見られた。 投力や固定施設を使った運動遊びに関しては、向上させるための手立てがさらに必要である。 様々な場や用具を用いて、中学年以降につながる動きを遊びの中で経験させることができた。</p> | <p>グループやチームでお互いにアドバイスをし合う活動や相互審判により、友達の動きから良いところを探すことができた。学習カードにより、自分なりのめあてを立てることで、達成感を味わえるようにした。 良い動きやポイントなどが言葉だけではイメージできないため、わかりやすい提示の仕方が必要である。</p> | <p>すべての児童が意欲的に取り組むことができるように、場の工夫やルールの工夫をした。運動が苦手な児童も意欲的に取り組もうとする姿が見られた。 校庭などに移動する前に電子黒板で技の確認やポイントについて動画を見せたり、写真を見せたりしたことで成功イメージを意識させることはできた。ICTの更なる活用が必要だと感じる。</p> | <p>めあてをスモールステップで提示し、様々な段階の児童が意欲をもって運動に取り組めるよう指導をしたことにより、児童は、課題を意識して、進んで学習に取り組むようになってきた。 技能習得のポイントの資料はさらに開発が必要である。 ペアやグループ学習、チーム編成を行い、互いに声をかけ合い、学び合うことで互いを認め合い運動が苦手な児童も楽しく取り組むことができた。</p> | <p>ペアやグループを児童の実態に合わせて編成することで、運動能力の向上につながった。 見通しをもって学習できるように、学習カードを用いたことで、自己の課題解決ができるようになった。 更なる運動能力の向上のためには、ICT機器を活用するなどの学習資料の工夫が必要である。</p> |